

秘

海軍公報 第四九八三號

昭和二十年四月十三日(金)

海軍大臣官房

○令 達

内令第二九四號

第七十三號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第七十三號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年四月五日

海軍大臣

内令第二九五號

第二十二號輸送艦

敷設艇 神島

第二十一號輸送艦

敷設艇 粟島

波號第二百一潜水艦

波號第二百二潜水艦

第二百四號海防艦

第七十六號輸送艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

昭和二十年四月五日

海

官房機密第一一六號

海軍軍需部長ハ夏期又ハ南方方面ニ行動スル潜水艦ニシテ左記

艦營需品ヲ要スル場合ハ主計長主管艦營需品定額表摘要ニ拘ラ

ズ之ヲ貸與スルコトヲ得

昭和二十年四月十日

海軍大臣

機密蒲團 丙

○通 牒

軍務一機密第一六〇號ノ五五

昭和二十年四月十日

海軍省軍務局長

各 鎮 守 府 參謀長殿

各 警 備 府 (除海南) 隊

戰時潜水艦乗員及航空機搭乗員等ノ保健ニ關

スル施設其ノ他ノ件申進

首題ノ件ニ軍務一機密第八六號、第四四六號、第六〇七號及

海軍公報 第四九八三號 昭和二十年四月十三日

三八三

2047



艦需品類移動禁止ニ關スル件申進

航空部隊ノ改組又ハ基地移動ノ場合現在地ニ裝備シアル艦需品類ヲ新基地ニ現物輸送セラルル向アルモ近時輸送力逼迫ノ事山ノミナラス舊基地ニ新規轉入スル新部隊ハ所要物件皆無又ハ不足ノ爲迷惑甚ダシキモノアリ延イテハ數航空部隊ノ物品ヲ遂次隨伴スルノ要ヲ生ジ急速戰備ニ影響スルノ虞有之候條自今基地間ノ現物移動ハ絕對ニ爲サザル様留意相成度

追テ需品類整備ナキ新基地ニ移動スル場合ハ速ニ海軍軍需部ヨリ現物ヲ受入ノコトトシ現供用中ノ物品ハ書類上還納等ニ依リ整理相成度

軍需機密第二六七號

昭和二十年四月十一日

關係各廳長殿

海軍省軍需局長  
海軍省經理局長

艦需品類直買通報ニ關スル件申進

艦需品類經理規程別表第二號備考第二ニ依リ圖書其ノ他ヲ直接購買シタル場合海軍兵備品會計規程第二十二條ノ受入手續ヲ要スルコトト相成居候處關係書類ニハ圖書等一括名稱、件數、總代價等ヲ記入スルニ止メ圖書ノ個々ノ品名、單價ノ記載ハ自今省略シ差支ナキ解釋ニ有之候

航本機密第二八七號

昭和二十年四月十一日

海軍公報 第四九八三號

昭和二十年四月十三日

關係各廳長殿

海軍航空本部總務部長

シリンダー溫度計ノ變更ニ關スル件通知

首題計器ノ名稱及補償線長新製品ヨリ左記ノ通變更セラレ候條了知相成度

追テ發信器、指示器ハ從來ノモノニ有之候

計器假名稱 (線長)	從來ノ該當計器	裝備機種
一號シリンダー 二型 (三米)	一號シリンダー 一型	零戰、雷電、紫電、紫電改、隼、(空冷)天山、九九練馬、九九艦爆、零式水偵瑞雲、烈風、零式練戰
同 (六米)	一號シリンダー 二型	零式練戰
同 (九米)	一號シリンダー 二型	零式輸
同 (十二米)	一號シリンダー 三型	一式陸攻
同 (十八米)	二號シリンダー 二型	銀河、極光
同 (九米)	二號シリンダー 一型	東海
同 (十二米)		
同 (十八米)		連山

三八五

○ 雜 款

○ 轉勤者赴任先

自今當隊へノ轉勤赴任者ハ當分ノ間左ニ依リ旅行セシメラレ度

第七二一海軍航空隊

戰團第三〇六飛行隊

戰團第三〇七飛行隊

宮崎縣東臼杵郡富高航空基地

戰團第三〇五飛行隊 鹿兒島縣鹿屋市鹿屋航空基地

攻撃第七〇八飛行隊 大分縣宇佐郡宇佐航空基地

攻撃第七一一飛行隊 (三月十六日附海軍公報號外掲載ノ分變更ニ付爲念)

(第七二一海軍航空隊)

當隊へノ赴任又ハ來隊者ハ左ノ順路ニ依ラレ度

水郡線東北本線安積永盛驛下車阿武隈川假橋ヲ渡リ當隊裏門ニ

至ル(約一軒)

追テ

一 郡山驛〇六二〇及一八一〇發定期自動車便ヲ發差ス利

用差支ナシ

二 旅費支給上ノ始終驛ハ從前郡山驛トス

(第一郡山海軍航空隊)

○ 本日軍極秘海軍公報第一一四號(甲配付)發行セリ

○ 本日海軍公報發行セズ

秘

# 海軍公報 第四九八四號

昭和二十年四月十四日(土)  
海軍大臣官房

○令 達

内令第二九六號(軍機秘海軍公報第一一五號(乙配付)ニ掲載)

内令第二九七號

昭和十八年内令第一二五九號海軍運輸部ノ支部ヲ置ク地等ノ件  
中左ノ通改正ス

昭和二十年四月五日

海軍大臣

表中

伏木

伏木

教賀

境

伏木支部

ヲ

伏木支部  
教賀支部  
境支部

ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ七〇頁参照)

内令第二九八號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件中左ノ通改正セラル

秘海軍公報 第四九八四號 昭和二十年四月十四日

昭和二十年四月五日

横須賀鎮守府ノ部中第一海軍航空隊ノ現駐地ニ對シテ  
左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

官房教機密第二〇二號

術科現地指導實施規程ニ基キ左ニ依リ主トシテ大阪警備府管下  
見張所及明治航空基地ニ對スル電測術指導講習ヲ實施ス

昭和二十年四月五日

海軍大臣

一 編制

編	制	派遣員
班長	海軍大尉 森健二郎	海軍電測學校
班員	海軍少尉 森田知之 海軍兵曹長 林正吾 下士官 四	

二 派遣期間

昭和二十年四月六日ヨリ約二週間

三 派遣地

大阪警備府管下電探見張所及明治航空基地

三八七

20.4.25 接受

2051

海軍公報 第四九八四號 昭和二十年四月十四日

三八八

官房人機密第二三一號

左ノ上欄ニ掲グル艦船部隊其ノ他各部ノ定員中特務士官以下ハ其ノ所管ニ拘ハラズ夫々相當ノ下欄ニ掲グル補充領守府ヨリ之

ヲ補充スベシ  
昭和二十年四月十三日

海軍大臣

所管領守府	應	名	補充領守府	所管領守府	應	名	補充領守府
吳領守府	伊號第百五十九潛水艦	佐世保領守府	橫須賀領守府	橫須賀領守府	第五十一及第五十二警備隊	橫須賀領守府	橫須賀領守府
橫須賀領守府	滿洲國在勤帝國大使官附武官附	吳領守府	橫須賀領守府	舞鶴領守府	第六十五警備隊	吳領守府	舞鶴領守府
橫須賀領守府	船舶救難本部	佐世保領守府	橫須賀領守府	橫須賀領守府	第八十三警備隊	吳領守府	橫須賀領守府
橫須賀領守府	船舶警戒部	各領守府	佐世保領守府	橫須賀領守府	第八十五警備隊	吳領守府	橫須賀領守府
橫須賀領守府	第三十根據地隊司令部	吳領守府	吳領守府	舞鶴領守府	第八十六警備隊	橫須賀領守府	舞鶴領守府
佐世保領守府	第二十一特別根據地隊	佐世保領守府	佐世保領守府	橫須賀領守府	第八十七警備隊	橫須賀領守府	佐世保領守府
舞鶴領守府	第二十二特別根據地隊	吳領守府	舞鶴領守府	舞鶴領守府	上海海軍特別陸戰隊	舞鶴領守府	舞鶴領守府
橫須賀領守府	第二十七特別根據地隊	各領守府	各領守府	吳領守府	陸戰隊	各領守府	各領守府
舞鶴領守府	第三十一特別根據地隊	舞鶴領守府	舞鶴領守府	橫須賀領守府	陸戰隊	各領守府	各領守府
吳領守府	第七警備隊	吳領守府	吳領守府	橫須賀領守府	陸戰隊	各領守府	各領守府
吳領守府	第十四警備隊	橫須賀領守府	橫須賀領守府	舞鶴領守府	陸戰隊	各領守府	各領守府
橫須賀領守府	第十八警備隊	佐世保領守府	佐世保領守府	吳領守府	陸戰隊	各領守府	各領守府
橫須賀領守府	第四十三警備隊	各領守府	各領守府	橫須賀領守府	陸戰隊	各領守府	各領守府
				豐橋海軍航空隊			

横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	佐世保鎮守府	佐世保鎮守府	吳鎮守府	佐世保鎮守府	佐世保鎮守府	吳鎮守府	吳鎮守府	吳鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	佐世保鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府
第二河和海軍航空隊	奈良海軍航空隊	青島海軍航空隊	北東海軍航空隊	關東海軍航空隊	馬來海軍航空隊	北非、中菲及南菲海軍航空隊	東印海軍航空隊	臺灣海軍航空隊	藏北海軍航空隊	第三三一海軍航空隊	第九五一海軍航空隊	第七六一海軍航空隊	第九〇一海軍航空隊	第九〇三海軍航空隊	
横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	各鎮守府	横須賀鎮守府	各鎮守府	各鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府
吳鎮守府	佐世保鎮守府	横須賀鎮守府	各鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府
第九三六海軍航空隊	第九五五海軍航空隊	第一〇二海軍航空隊	東京海軍通信隊	父島通信隊	第三通信隊	第三十二通信隊	海軍兵學校	第二百二海軍經理部	第二百二海軍軍需部	第三十海軍工作部	第一百二海軍工作部	第三海軍建設部	南西方面海軍航空廠	第一百一及第二百二海軍燃料廠	第三氣象隊昭南支隊
横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	各鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	各鎮守府	舞鶴鎮守府	佐世保鎮守府	吳鎮守府	舞鶴鎮守府	吳鎮守府	佐世保鎮守府	各鎮守府	佐世保鎮守府

秘海軍公報 第四九八四號 昭和二十年四月十四日

吳鎮守府	第三氣象隊マニラ支隊	舞鶴鎮守府	吳鎮守府	第百二海軍病院	舞鶴鎮守府
橫須賀鎮守府	第八海軍病院	橫須賀鎮守府	吳鎮守府		
備	一 本表ハ固有定員ニ對スル補充鎮守府ヲ示スモノトス				
考	二 臨時増置ニ對スル補充鎮守府ハ特ニ指定スル場合ヲ除キニ以上ノ鎮守府ヨリ補充シアルモノニ付テハ當該所管鎮守府ヨリ一鎮守府ヨリ補充シアルモノニ付テハ當該補充鎮守府ヨリ補充スルモノトス				

官房人機密第二三二號

昭和十九年官房人機密第二〇四七號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十三日

海軍大臣

偵察第六〇一乃至第九〇〇飛行隊	佐世保鎮守府
偵察第一乃至第一〇〇飛行隊	舞鶴鎮守府
偵察第六〇一乃至第八〇〇飛行隊	佐世保鎮守府
偵察第八〇〇一乃至第一〇〇〇飛行隊	吳鎮守府
偵察第一乃至第一〇〇飛行隊	舞鶴鎮守府

ヲ

(參照) 昭和十九年官房人機密第二〇四七號ハ特設飛行隊ノ定員中特務士官以下ノ補充鎮守府ヲ定ムル件ナリ(内令提要卷二、二二ノ一頁)

〇 通 牒

海人一第九號ノ二二

昭和二十年四月十一日

海軍省人事局長

關係所轄長殿

豫備士官專修科目變更ノ件通知

左記ノ者ハ孰モ昭和二十年四月一日附專修科目ヲ變更セラレ候

官等	氏名	舊別	新別	電報符
少尉	御守 英夫	飛行班	要務班	ヨヒ七〇四
同	山本 榮作	同	同	ヨヒ三三二
同	武田 彌兵衛	同	同	ヨヒ三三六
同	若山 豊治	同	同	ヨヒ三三五
少尉候補	後藤 政壽	要務班	飛行班	ヨヒ七〇八
補少尉				ヨヒ三三八

海人一機密第一八號ノ五ノ五

昭和二十年四月十三日



海軍省人事局長

各鎮守府參謀長  
各警備府參謀長  
各艦隊參謀長  
關係各所轉長 殿

補充鎮守府ニ關スル件自然消滅ノ件申進

今般官房人機密第二三二號ニ依リ新ニ補充鎮守府ヲ定メラレ候  
處從前ノ補充鎮守府指定ニ關スル令達ハ自然消滅ノ義ト了知相  
成度

軍需二機密第四三四號

昭和二十年四月十三日

海軍省軍需局長

關係各廳長 殿

燃料繰替供給單價追加ノ件通牒

昭和十九年軍需二機密第一〇九七號通牒ニ左記ヲ追加致候

記

品	種	數	稱	單	價
コ	ク	一	一〇〇〇	〇	〇
二	號	立	七	二〇	
三	號	同	六	一〇	
菜	種	同	六	八〇	
旋	盤	同	九	四〇	

秘海軍公報 第四九八四號 昭和二十年四月十四日

一	號	グ	リ	一	ス	卍	九	二〇
二	號	グ	リ	一	ス	同	八	一〇
三	號	グ	リ	一	ス	同	七	四〇
九	號	グ	リ	一	ス	同	八	二五〇
十	號	グ	リ	一	ス	同	八	二五〇

○雜 款

○本日軍機秘海軍公報第一一五號(乙配付)發行セリ  
配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、  
同支廠

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四九八五號

昭和二十年四月十五日(日)

海軍大臣官房

○令 達

内令第二九九號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年四月五日

海軍大臣

「第一一海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

内令第三〇〇號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年四月五日

海軍大臣

「第一一海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

内令第三〇一號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

海防艦 波 太

海軍公報 第四九八五號 昭和二十年四月十五日

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年四月七日

吳鎮守府在籍

海防艦

海軍

陸軍部 陸軍大臣官房 20.4.25 受

内令第三〇二號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

海防艦

奄美

舞鶴鎮守府在籍

海防艦

奄美

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年四月八日

海軍大臣

内令兵第一三號

十七試三十耗固定機銃一型ヲ兵器ニ採用シ五式三十耗固定機銃一型ト呼稱ス

昭和二十年四月十三日

海軍大臣

三九三

2056

官房人機密第二〇四號

本年內令員第六四四號ニ依ル各海兵團在團者ハ其ノ間別ニ辭令ヲ用ヒズ(特ニ發令セラルルモノヲ除ク)シテ同號所定ノ區分ニ依リ各警備隊ノ職員ヲ兼務セシメラルル義ト心得ベシ  
昭和二十年四月一日

海軍大臣 臣

官房人機密第二〇五號

本年四月一日現在左記上欄各部ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ  
昭和二十年四月一日

海軍大臣 臣

第一海軍技術廠支廠電氣部	第一海軍技術廠電氣部
第四百四海軍病院	第四百二海軍病院
第四百四海軍經理部	第四百二海軍經理部

官房人機密第二三四號

昭和十九年官房人機密第二〇四七號中左ノ通改正ス  
昭和二十年四月十四日

海軍大臣 臣

偵察第六〇一乃至第八〇〇飛行隊

偵察第六〇一乃至第八〇〇飛行隊  
(偵察第七〇三、第七〇七及第七〇九飛行隊ヲ除ク)

ニ改メ末尾ニ左ノ如ク加フ

偵察第七〇三飛行隊

偵察第七〇七飛行隊

偵察第七〇九飛行隊

横須賀鎮守府	舞鶴鎮守府
横須賀鎮守府	横須賀鎮守府

(參照) 昭和十九年官房人機密第二〇四七號ハ特設飛行隊ノ定員中特務士官以下ノ補充鎮守府ヲ定ムル件ナリ(內令提要卷二、二二ノ一頁)

官房經機密第二二三號

昭和十八年官房機密第九八二號中左ノ通改正ス  
昭和二十年四月十四日

海軍大臣 臣

「及北京在勤海軍武官附首席主計科士官」及「各」ヲ削ル

(參照) 昭和十八年官房經機密第九八二號ハ京城及北京ニ於ケル契約擔任官ノ件ナリ(機密會計法規類集五三五頁)

官房經機密第二二四號

昭和十五年官房機密第八一七〇號中左ノ通改正ス  
昭和二十年四月十四日

海軍大臣 臣

表中第一海軍經理部長ノ部取扱地域ノ欄中「揚子江流域」ヲ「安慶(安慶ヲ含マズ)ヨリ下流ノ揚子江流域」ニ改メ「揚子

江口北岸以北ノ下ニ「北京、天津及北支那渤海沿岸ヲ含マズ」ヲ加ヘ同部中第一海軍經理部青島支部長ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第一海軍經理部漢口支部長	安慶ヨリ上流ノ揚子江流域
第一海軍經理部北京支部長	北京、天津及北支那渤海沿岸

附 則

本令ハ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ適用ス

(参照) 昭和十五年官房機密第八一七〇號ハ支那及南洋群島ニ於ケル應費物品ノ出納機關並ニ之ガ取扱地域區分ノ件ナリ(機密會計法規類集四三二頁)

官房機密第二二五號

昭和十五年官房機密第八一七四號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十四日

海 軍 大 臣

第一號表中契約擔任地域ノ欄「揚子江流域」ヲ「安慶(安慶ヲ含マズ)ヨリ下流ノ揚子江流域」ニ改メ「揚子江口北岸以北」ノ下ニ「北京、天津及北支那渤海沿岸ヲ含マズ」ヲ加ヘ同表中第一海軍經理部青島支部長ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第一海軍經理部漢口支部長	安慶ヨリ上流ノ揚子江流域
第一海軍經理部北京支部長	北京、天津及北支那渤海沿岸

附 則

秘海軍公報 第四九八五號 昭和二十年四月十五日

本令ハ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ適用ス

(参照) 昭和十五年官房機密第八一七四號ハ作戦地等ニ在ル艦船部隊ニ要スル契約ノ件ナリ(機密會計法規類集五三二頁)

〇 通 牒

官房機密第三八二號

昭和二十年四月十三日

海 軍 省 副 官

横須賀鎮守府 參謀長殿

吳鎮守府 參謀長殿

高等商船學校ニ特務中少尉又ハ兵曹長派遣ニ關スル件通知

昭和二年官房機密第三六號首題ノ件訓令ハ廢止セラレ候

(内含提要卷一、二四三頁参照)

經讓機密第三號ノ三四

昭和二十年四月十一日

海 軍 省 經 理 局 長

關係各廳長殿

外資金庫設置ニ伴フ經費等ノ取扱ニ關スル件

通牒

今般外資金庫ノ設置ニ依リ支那(軍票使用地域ヲ除ク)及南方甲地域ニ於ケル臨時軍事費ノ支拂ノ一部(物件的經費)ハ同金庫資金ヲ以テ之ヲ調整スルコトニ定メラレ候處同資金ノ授受、

三九五

決算關係事務等ハ現地海軍機關ニ手數ヲ煩ハサズ一切當局ニ於テ之ヲ處理スルコトト相成候條左記ニ關シ可然取計相成度

記

一 當分ノ間支那(軍票使用地域ヲ除ク)及南方甲地域(以下現地ト稱ス)ニ於ケル依託工事等ニ要スル經費(準備購入ヲ除ク)ハ同地ノ艦隊經費分任出納官吏ヲシテ之ヲ掌理セシメ所  
要資金ハ海軍省經理局主任出納官吏ヨリ之ヲ分割交付スルモノトシ之方爲現地ニ設置セル普通經費ノ臨時資金前渡官吏ハ  
當該支出官ニ於テ可及的速ニ之ヲ免ジ其ノ保有セル普通經費  
殘額ハ之ヲ返納又ハ艦隊經費ト振替納受セシメ爾後ノ經費ニ  
付テハ支出官海軍省經理局長トノ間ニ於テ支拂豫算ノ増減ヲ  
行フコト

二 艦隊經費分任出納官吏ノ經費受入ニ付テハ俵給(増俸)等  
ノ單一科目ニ依ルコトナク努メテ各所要當該正當科目ニ依ル  
コト

三 現地ニ在ル分任出納官吏ノ調製スル艦隊經費前渡資金現況  
報告書、前渡資金増減報告書及艦隊經費明細仕譯書寫ハ海軍  
省經理局ニ於ケル外資金庫資金調整事務、決算事務等ノ資料  
トシテ使用セラルルニ付之方調製送付ニ付テハ特ニ確實迅速  
ヲ期スルコト

四 支那ノ軍票使用地域(香港等)ニ於テ外貨(備備銀行券等)  
ヲ以テ支拂ハルル經費ニ對スル艦隊經費分割請求書及艦隊經  
費前資金現況報告書ハ之ヲ軍票ニ依ルモノト區別別紙トシ欄

外ニ「外貨支拂」ト朱書スルコト

五 現地ニ於ケル準備購入ニ屬スル資金等ノ取扱整理ハ左ニ依  
ルコト

(イ) 準備購入資金ノ資金前渡ハ三月以降當分ノ間艦隊經費ノ  
例ニ準ジ新ニ設ケラレタル主任資金前渡官吏(經理局第四

課局員)ヨリノ分割交付ニ依ルコト

(ロ) 各資金前渡官吏ハ艦隊經費ノ例ニ準ジ準備購入前渡資金  
現況報告書(以下現況報告書ト略稱ス)ヲ調製ノ上主任資

金前渡官吏ニ送付スルコト

(ハ) 法幣資金運用ノ爲前渡セラレタル臨時軍事費中準備購入  
資金殘額及法幣資金操作開始前ノ準備購入資金殘額ハ(イ)ノ  
資金ト合算整理シ現況報告書記事欄ニ元受額内譯記入ノコ

ト

(ニ) 四月一日以降準備購入資金ノ科目ハ新ニ物資特別購入諸  
費(目)中準備購入費(節)トシテ設ケラレタルニ付三月

末準備購入資金殘額ハ右科目ニ流用ノコト

六 準備購入材料物品ニシテ内地へ搬送セルモノハ當分ノ間購  
入單價ノ十分ノ一ノ單價ニ依リ之ヲ整理スルコト

秘

海軍公報 第四九八六號

昭和二十年四月十六日

海軍大臣官邸

○通牒

官房機密第一三四號ノ二七

昭和二十年四月一日

海軍省 副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書

現狀表第四九號ニ依リ處理相成度

(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

軍務一機密第二七六號

昭和二十年四月十四日

海軍省軍務局長

聯合艦隊、各鎮守府、各警備府、海上護衛 參謀長殿

港灣警備隊派遣遺隊ノ解釋ニ關スル件申進

三月二十日附橫濱警備隊ヲ橫濱港灣警備隊ニ改編セラレタル處

同警備隊ハ本來船舶警戒部ナルヲ以テ各地所在船舶警戒部支部

ハ橫濱港灣警備隊派遣遺隊ト爲リタルモノト承知相成度

教育機密第一六五號

昭和二十年四月十日

秘海軍公報 第四九八六號 昭和二十年四月十六日



2060

各鎮守府參謀長、聯合艦隊參謀長、海軍經理學校長 殿

海軍省 副官

現戰局ニ鑑ミ昭和十九年官房機密第四九〇號ニ依ル准士官學

生教育特例中首題ノ件ハ當分ノ間中止シ(潛水艦關係員ヲ除ク)

基礎教育ノミ實施ノコトニ定メラレ候

教育機密第一七一號

昭和二十年四月十三日

海軍省教育局長、海軍省人事局長

各鎮守府參謀長、各警備府參謀長、聯合艦隊參謀長 殿

特別志願兵及徵兵(半島及本島出身)ノ新兵

教育等ニ關スル件中改正ノ件中申進

昭和十九年教育機密第三三一號ニ依ル首題ノ件左記ノ通改正セ

ラレ候

記

一 教育實施要領中新兵教育期間ヲ各兵種共約四月ニ改メ記事

欄ヲ削除ス

三九七

艦本機密第一號ノ四八八八

昭和二十年四月十五日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

二式陸用高射裝置ノ使用法ニ關スル件照會

七纏野戰高射砲ニ二式陸用高射裝置ヲ組合セ裝備セル高角砲砲臺ニアリテ三式複働信管四型ヲ使用スル場合ハ高度ニ依ル信管分割修正ヲ要セザルニ付高射裝置ノ信管分割修正曲線筒ノ高度曲線ヲ追尾スルコトナク信管分割修正指針ハ零基點ニ整合ノ儘使用スルモノト了知相成度

○感 狀

感 狀

「マニラ」海軍防衛部隊第二大隊第五中隊  
「マニラ」海軍防衛部隊第二大隊第六中隊  
海軍大尉西村幸雄ノ指揮スル第五中隊海軍大尉水谷弘康ノ指揮スル第六中隊ハ「マニラ」地區ノ戰闘ニ於テ熾烈ナル敵ノ集中砲火戰車ノ包圍攻撃ヲ受ケ戰死者續出セルモ十數日ニ亘リ善戰敢闘克ク陣地ヲ堅持シ又轉進整理ノ命令ヲ受クルヤ敢然敵ノ重圍ヲ破リ轉進集結ヲ了セリ  
此ノ間戰車六擱坐人員殺傷四〇〇名以上ノ戰果ヲ收メタルハ武功拔群ニシテ其ノ行爲ハ全軍ノ範トスベキモノト認ム  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和二十年二月二十五日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

○雜 款

○事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始月日	電 話	記 事
特務艦針尾殘務整理班事務所	吳海軍經理部内吳鎮守府整理班内	三月三日		
第二百號海防艦艦長事務所	長崎市三菱重工株式會社海防艦事務所内	三月二日		
松山海軍監督官事務所	香川縣高松市朝日町四九七株式會社四國船渠工業所内	三月二六日	高松(四七七三)三七九五	
同 新居濱分室	愛媛縣新居濱市甲一五四新居濱化學工業株式會社新居濱工場内	同	新居濱(五五五)六五五	
第二海軍航空旅団司令部	神奈川縣横須賀市逗子町子第二海軍航空工場内	四月一日		

○事務所撤去

事務所名	撤去月日	記 事
第二百二十一號海防艦艦長事務所	四月二日	
第七十三號海防艦艦長事務所	四月五日	
海防艦砲美機裝具事務所	四月七日	

○本日海軍公報發行セズ

秘

# 海軍公報

第四九八七號

昭和二十年四月十七日(火)

海軍大臣官房

昭和二十年四月十日

内令第三〇三號  
艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

驅逐艦、一等峯風型ノ項中「野風」ヲ、同松型ノ項中「檜」ヲ削ル

潜水艦、一等伊三百六十一型ノ項中「伊號第三百六十二」  
「伊號第三百六十八」  
「伊號第三百七十」  
「伊號第七十一」ヲ、同  
「三等呂三十五型」ノ項中「呂號第四十三」ヲ削ル

砲艦ノ部中「唐津」ヲ削ル  
海防艦、御藏型ノ項中「昭南」ヲ、同鶴來型ノ項中「屋久」  
ヲ、同第一號型ノ項中「第九號」  
「第五十三號」ヲ、同第二  
號型ノ項中「第四百四十四號」ヲ削ル  
輸送艦、二等第百一號型ノ項中「第百十四號」ヲ削ル  
敷設艇、測天型ノ項中「成生」ヲ削ル

(内令提要卷三、三三三頁参照)

内令第三〇四號  
特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

特務艦、運送艦知床型ノ項中「知床」ヲ削ル

内令第三〇五號

特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

特務艇、魚雷艇第二百一號型ノ項中「第四百六號」ヲ、同末  
尾ノ項中「第百九號」ヲ削ル

(内令提要卷三、四三三頁参照)

内令第三〇六號

特設海軍補充部ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件申左ノ通改正  
セラル

昭和二十年四月十日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中

第二海軍補充部

ラバウルヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ六〇頁参照)

秘海軍公報 第四九八七號

昭和二十年四月十七日

三九九

2062



内令第三〇七號

特設海軍補充部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

第二條表中第二海軍補充部ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ五九頁參照)

内令第三〇八號

昭和十六年内令第六五〇號中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

第三號(ロ)中「推進機部、」ノ下ニ「噴進部、」ヲ加フ

(參照) 昭和十六年内令第六五〇號ハ海軍工務規則第三條ノ部ノ件ナリ(内令提要一巻 三〇ノ三三頁)

○通牒

海人四機密第一五〇號

昭和二十年四月十六日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

陸軍戰時召集延期實施要領中改正ノ件通知

昨年兵備四機密第五〇〇號ノ四(昭和十九年十二月十六日秘海軍公報參照)及昭和十八年兵備四機密第四〇〇號(昭和十八年

五月十五日海軍公報(部内限)參照)ニ依ル戰時召集延期實施要領(一般用)中左記ノ通改正セラレタル旨陸軍省ヨリ通知有之候條可然取計相成度

記

第八號3號中「名簿寫一通」ノ下ニ「及削除名簿(別紙第十一

ニ據ル但陸軍大臣宛ノモノヲ除ク)」ヲ加フ

別紙第十ヲ別表ノ通改ム

(別表添)

經豫第七號ノ二二

昭和二十年四月十三日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

アルミ貨回收ノ徹底並ニ促進ニ關スル件通牒

二月十二日兵備二機密第二五九號通牒ニ係ルアルミ貨回收措置

ニ關シテハ之ガ徹底ヲ期スル爲其ノ引換期間ヲ四月末迄延長ノ

コトニ定メラレ候處更ニ大藏省ヨリ之ガ促進ノ爲左記要領ニ依

リ小額日本銀行券ノ回滑ナル供給ニ對スル協力方依頼有之候條

可然處理相成度

記

一 四月分ノ俸給、給料、手當等ノ支給ニ際シテハ拾錢又ハ五

錢ノ日本銀行券ヲ可及的多額ニ混用シ各人ノ給與ニ付爲シ得

ル限リ五圓以上ノ小額日本銀行券ヲ用フル様措置スルコト

二 現在拾錢券及五錢券ハ千枚ヲ一包トシ百枚毎ニ桃色ノ區分

紙ヲ搜入シアルヲ以テ便宜上其ノ區分ニ從ヒ拾錢券百枚又ハ五錢券百枚ヲ其ノ儘一人分ノ給與ニ用フルモノトシ各地ノ實情ニ即シ俸給、給料又ハ手當ノ月額百圓以上ノ者ニ對シテハ拾錢券百枚ニテ拾圓、月額百圓未満ノ者ニ對シテハ五錢券百枚ニテ五圓ヲ用フルヲ一應ノ標準トスルコト

艦本機密第三號ノ四七〇九  
昭和二十年四月十六日

海軍艦政本部總務部長

橫須賀、吳 各海軍工廠總務部長  
佐世保、舞鶴 各海軍工廠總務部長  
各海軍工廠總務部長  
各海軍工廠總務部長  
各海軍工廠總務部長  
各海軍工廠總務部長

新造雜役船(艦載艇ヲ含ム)固有裝備ノ照明電燈用電球處理ニ關スル件照會

首題電球ハ一月二十三日艦本機密第三號ノ六九七照會ニ準ジ左記ノ通處理相成度

- 一 建造所ハ常ニ照明試驗用トシテ適當數ノ海軍制式照明用電球ヲ調達シオクモノトス
- 二 建造所ハ引渡迄ニ第一項ニ依リ調達セル試驗用電球ヲ用ヒ所定ノ照明電燈試驗ヲ終了セシメタル後取外シ保管シオクモノトス
- 三 配屬ヲ受ケタル工廠艦船部隊ハ最寄軍需部ヨリ常用(裝備數)及補用(裝備數ト同數)ノ照明電燈用電球ヲ受入裝備ス

秘海軍公報 第四九八七號 昭和二十年四月十七日

ルモノトス

海軍功績調查第一〇號ノ四

昭和二十年四月十六日

海軍功績調查部長

各領守府參謀長  
各警備府參謀長  
各海軍監督長

内地死歿部外者ノ功績具申ニ關スル件申進

昭和十五年四月二十九日以降海軍關係ノ諸業務ニ從事シ内地ニ於テ死歿セルモノハ左記ニ依リ功績具申ノコトニ取計相成度

記

種別	區分		具申範圍
	職死又ハ殉職	不病死	
在郷軍人	全	員	功績アリテ眞ニ行實スルヲ適當トスルモノ
軍需會社	同	右	功績高ク眞ニ行實スルヲ適當トスルモノ
管理工場	同	右	
監督工場	同	右	
工務工場	同	右	
場	同	右	
防空監視隊	全	員	功績アリテ眞ニ行實スルヲ適當トスルモノ
其他ノ部外者(勸學隊、挺身隊等ヲ含ム)	功績特ニ高ク眞ニ行實スルヲ適當ト認ムルモノ		

四〇二

2064

(註) 昭和十九年官房人機密第二〇六四號ニ依リ死没ノ前日ヲ以テ海軍軍屬トナルモノハ軍屬トシテ正規ノ手續ニ據リ處理ノコト

○雜 款

○派遣隊復歸  
當隊藤枝派遣隊竝ニ大分派遣隊ハ今般本隊ニ復歸セリ  
(横須賀海軍航空隊)

○事務所撤去

事務所名	撤去月日	記 事
第六監視艇隊殘務整理班	四月一日	殘務整理終了ニ付
笠置(テ九五) 艦裝員事務所	四月一日	殘務整理ハ長崎市徳ノ浦海軍監督官事務所ニ於テ之ヲ行フ
第四十四魚雷調整班事務所	四月二日	岩國航空基地氣出ニ付

○本日海軍公報發行セズ

4				3								2						1				軍管區						
海東				部東								北東						部北				師管區						
8				7				6				5				4				3		2		1				師管區
屋古名				澤金				野長				宮都宇				京東				臺仙		前弘		川旭				師管區
27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	序順	
津	靜	岐	名	富	金	長	新	前	宇	水	千	浦	横	甲	東	福	山	仙	秋	盛	青	豊	劍	函	札	旭	名	
	岡	阜	古	山	澤	野	湯	橋	宮	戸	葉	和	濱	府	京	島	形	臺	田	岡	森	原	路	館	幌	川	隊	
三	靜	岐	愛	富	石	長	新	群	柄	茨	千	崎	神	山	東	福	山	宮	秋	岩	青	北海				府		
重	岡	阜	知	山	川	野	湯	馬	木	城	葉	玉	川	梨	京	島	形	城	田	手	森	海道				縣		
6														5												序順		
部西														部中												師管區		
14				13				12				11				10				9				師管區				
米留久				本熊				寺通善				島廣				阪大				都京				師管區				
51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28		序順			
長	佐	福	沖	鹿	宮	大	熊	高	松	德	高	山	松	廣	島	岡	神	和	奈	大	福	大	京	名				
			兒															歌						隊				
崎	賀	岡	細	島	崎	分	本	知	山	島	松	日	江	島	取	山	戸	山	良	阪	井	津	都	區				
			兒															歌						府				
崎	賀	岡	細	島	崎	分	本	知	媛	島	川	口	根	島	取	山	庫	山	良	阪	井	賀	都	縣				

(海人四機密第一五〇號別表第十)

(昭和二十年四月十七日綴海軍公報)

秘

# 海軍公報

第四九八八號

昭和二十年四月十八日(水)  
海軍大臣官房

○令 達

達第七一號

海軍應徵船員給與規則ノ通定ム

昭和二十年四月十七日

海軍大臣

海軍應徵船員給與規則

第一章 總則

第一條 海軍ニ配屬又ハ配置セラレタル應徵船員(以下應徵船員ト稱ス)ノ給與ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外本則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 應徵船員ハ給與取扱上之ヲ左ノ二種ニ區分ス

甲船員 固有ノ軍屬トシテ海軍ニ配屬又ハ配置セラレタル者

乙船員 甲船員以外ノ者

第三條 乙船員ニ對シ本則、應徵船員給與規則(昭和二十年運輸通信、陸軍、海軍省令第一號)及應徵船員死傷病手当給與規則(昭和二十年運輸通信、陸軍、海軍省令第二號)ニ依リ

支給スベキ給與ハ船舶運營會ニ之ヲ掌理ヲ委託スルモノトス

第四條 應徵船員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ給料等諸給與

(臨時乗船手当、戰時勤務手当、特別航海手当、臨時家族手当、機關部員手当、油槽船手当及特技手当ヲ含ム以下之ニ同

秘海軍公報 第四九八八號 昭和二十年四月十八日

ジ)ハ其ノ月分ヲ含ミ三月分以内ニ於テ前金拂ヲ爲シ又ハ翌月以後三月以内ノ適宜ノ時期迄之ヲ支給ヲ繰延ブルコトヲ得

一 戰地ニ在ルトキ

二 戰地ト戰地外トノ間又ハ戰地相互間ヲ赴任、轉勤又ハ一時往復スルトキ

三 航海ヲ爲ストキ

第五條 乗組船舶ノ破壊、沈没其ノ他公務上ノ非常ノ災害ニ依リ廳長必要アリト認メタルトキハ給料等諸給與ノ一月分ヲ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第六條 應徵船員ニシテ戰地ニ在ルモノ、戰地ニ派遣セララルモノ若ハ戰地ニ一時往復スルモノ又ハ航海中ノモノ死亡シタルトキハ死亡公表ノ日ノ屬スル月分迄從前ノ給料等諸給與ヲ支給ス但シ死亡公表アリタル場合ト雖モ前金拂ヲ爲シタル給料等諸給與ニ付テハ前金拂ノ日ノ現在ノ給料等諸給與ニ依リ

其ノ前金拂ニ係ル月分迄之ヲ支給ス

死亡ノ日任用又ハ昇給アリタル場合ニシテ死亡ノ月ニ於テ死亡ノ公表アリタルトキハ前項本文ノ規定ニ拘ラズ附令ノ日以

後ノ新給額ヲ支給ス

前二項ノ規定ハ賞與ノ支給ニ付之ヲ準用ス

第七條 應徵船員ノ給料等諸給與ハ月ノ十六日以後ニ於テ其ノ月分ヲ支給ス但シ海軍部内ニ於テ所屬ヲ轉シタルトキハ其ノ

四〇三

2067

際前勤務廳ニ於テ其ノ月分ヲ支給ス  
前項ノ規定ニ依リ前勤務廳ニ於テ支給シタル給與ニシテ前勤  
務廳退廳後生ジタル事由ニ依リ過拂、不足拂ト爲リタル金額  
ハ後勤務廳ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

第二章 給料

第八條 應徵船員ノ給料ニ關シテハ應徵船員給與規則ヲ準用ス  
第九條 應徵船員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間給料ハ  
月額ノ百分ノ六十ヲ支給ス

一 公暇又ハ請暇ヲ受ケ下船中ノ者故ナクシテ歸著ノ期ニ後  
レタルトキハ其ノ日ヨリ復歸ノ日ノ前日迄

二 故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務外ノ事由ニ  
因リ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之方爲下船中ノ者下船後三  
月ヲ超エタルトキハ三月ヲ超エタル日ヨリ復歸ノ日ノ前日  
迄

三 故意又ハ重大ナル過失ニ因リ業務外ノ事由ニ因リ傷痕ヲ  
受ケ又ハ疾病ニ罹リ之方爲下船中ノ者ニ在リテハ下船ノ日  
ノ翌日ヨリ復歸ノ日ノ前日迄

四 留置、勾留ノトキハ其ノ日ヨリ放免、取消又ハ釋放ノ日  
迄、被告事件ノ爲護送ノトキハ出發ノ日ヨリ到着ノ日迄

五 處罰ノトキハ勤務ニ服セザル日數

前項ノ給料ニハ附則第二項ニ定ムル補給手當及同第四項ニ定  
ムル手當、應徵船員給與規則第八條又ハ第十四條ニ定ムル加  
給ヲ含ムモノトス

第十條 應徵船員ノ給料ノ支給區分ニ付テハ本則ニ定ムルモノ  
ヲ除クノ外雇員傭人給與規則中給料支給ノ例ニ依ル

第三章 手當

第一節 臨時乘船手當

第十一條 應徵船員船中ハ左ノ區分ニ依リ臨時乘船手  
當ヲ支給ス

一 總噸數五百噸以上ノ船中乗組ム者ニ在リテハ給料月額  
ノ百分ノ六十五（船長ニ在リテハ百分ノ八十）ニ相當スル  
金額

二 總噸數五百噸未滿ノ船中乗組ム者ニ在リテハ第一表ノ  
額

前項ノ臨時乘船手當ハ乘船ノ日ヨリ配屬ヲ解カレタル日、配  
置ヲ離レタル日又ハ死亡ノ日迄之ヲ支給ス

第一項ノ臨時乘船手當ハ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ勤務ニ  
服セザル日數ニ付テハ其ノ間之ヲ支給セズ

第二節 戰時勤務手當

第十二條 應徵船員船中乗組中ハ左ノ區分ニ依リ戰時勤務手當  
ヲ支給ス

一 總噸數五百噸以上ノ船中乗組ム者ニ在リテハ給料月額  
ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額

二 總噸數五百噸未滿ノ船中乗組ム者ニ在リテハ第二表ノ  
額

前條第二項及第三項ノ規定ハ本節ノ手當ニ付之ヲ準用ス

第三節 特別航海手當

第十三條 應徵船員船舶乗組中ハ第三表ニ依リ特別航海手當ヲ支給ス

前項ノ手當ハ左ニ掲グル期間ハ之ヲ支給セズ

一 内地ニ於ケル港域ニ在ル期間

二 瀬戸内海ニ在ル期間

前項各號ノ區域ニ入り又ハ其ノ區域ヲ出デタル日ハ之ヲ支給期間ニ算入ス

第四節 臨時家族手當

第十四條 應徵船員ニハ海軍臨時家族手當支給規則(第二條ノ二ヲ除ク)ヲ準用ス

第五節 機關部員手當

第十五條 普通船員ニシテ機關部員タルモノニハ船舶ニ乗組中月額十圓ノ機關部員手當ヲ支給ス

石炭ノ焚火又ハ運搬ニ従事スル機關部員ニハ月額十五圓ノ手當ヲ加給ス

第十一條第二項及第三項ノ規定ハ本節ノ手當ニ付之ヲ準用ス

第六節 油槽船手當

第十六條 應徵船員油槽船乗組中ハ左ノ區分ニ依リ油槽船手當ヲ支給ス

一 「グレート」油槽船ニ乗組ム者ニ在リテハ給料月額ノ百分十五ニ相當スル金額

二 「クリーン」油槽船ニ乗組ム者ニ在リテハ給料ノ月額ノ

百分ノ三十ニ相當スル金額

三 應急油槽船ニ乗組ム者ニ在リテハ給料ノ月額ノ百分ノ三ニ相當スル金額

「グレート」油槽船ニ「クリーン」油ヲ積載シタル場合ニハ積込開始ノ日ヨリ次回「グレート」油積込ノ日又ハ入渠ノ日迄

前項第二號ノ額ヲ支給ス

第十一條第二項及第三項ノ規定ハ本節ノ手當ニ付之ヲ準用ス

第七節 特技手當

第十七條 普通船員ニシテ左ノ各號ヲ一ニ該當スルモノ夫々石炭焚火業務、信號業務、喇叭業務、水中聽音業務又ハ電波探知業務ニ従事スルトキハ第四表ニ依リ特技手當ヲ支給ス

一 日本海運報國團給炭檢定證書ヲ有スル者

二 陸軍信號手資格證書ヲ有スル者又ハ海軍船舶檢定合格證書ヲ有スル者

三 陸軍喇叭手資格證書ヲ有スル者

四 海軍水中聽音機取扱講習終了證書又ハ海軍電波探知機取扱講習終了證書ヲ有スル者

前項第一號乃至第三號ノ檢定證書又ハ資格證書ノ有効期間ハ滿一年トス但シ滿一年ヲ經過シタル後ト雖モ航海ノ都合ニ依リ再檢定ヲ受クルコト能ハザル場合ニ於テハ再檢定ヲ受クルコトヲ得ベキ時迄特技手當ヲ支給スルコトヲ得

第八節 船匠道具手當

第十八條 船匠ニハ船舶ニ乗組中月額十圓ノ船匠手當ヲ支給ス

第十二條 第二項及第三項ノ規定ハ本節ノ手當ニ付之ヲ準用ス

第九節 水先手當

第十九條 總噸數一千噸以上ノ船舶又ハ戰時標準船改裝型内燃

機關ノ船舶ノ船長水先人ヲ傭入セズシテ左ニ掲グル港又ハ之

ニ至ル水路ニ於テ運航ニ從事シタルトキハ水先手當ヲ支給ス

關門港、群山、海州、大同江諸港、鴨綠江諸港、營口、白河

諸港、上海、温州、福州、廈門、汕頭、廣東

前項以外ノ港又ハ之ニ至ル水路ニ在リテモ強潮流、強風、惡

天候等特別ノ事情アル場合ニ於テ運航スルトキハ水先手當ヲ

支給スルコトヲ得

前二項ノ手當ノ支給額ハ當該地域ニ付定メラレタル水先案内

料ノ百分ノ三十二ニ相當スル金額トス但シ短期間内ニ同一場所

ニ於テ同様ノ運航ニ從事シタルトキハ第五表ニ依ル

第十節 長期就航手當

第二十條 應徵船員乗船中引續キ三月ヲ超エテ内地(北海道、

本州、四國及九州ヲ謂フ以下之ニ同ジ)外ノ區域ニ航海シタ

ルトキハ内地最終港灣ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ起算シ三月ヲ

經過シタル日以後ノ最初ノ一月ハ給料ノ百分ノ十二ニ相當スル

額トシ其ノ後ノ期間ニ在リテハ一月毎ニ給料ノ百分ノ十二ニ相

當スル金額ヲ累加シタル金額ヲ長期就航手當トシテ支給ス但

シ其ノ一月毎ノ累加金額ハ給料ノ百分ノ百五十二ニ相當スル金

額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十一條 前條ノ規定ニ該當スル應徵船員内地沿岸外ニ於テ

船舶ノ沈没其ノ他不可抗力又ハ公務ニ原因スル傷痕疾病ニ因

リ其ノ配置ヲ離レタルトキハ内地到着ノ日迄ノ期間ニ付テハ

引續キ乗船シタルモノト看做ス

第二十二條 長期就航手當ハ公務又ハ不可抗力ニ因ルニ非ズシ

テ配置ヲ離レタルトキハ其ノ日ノ翌日ヨリ復歸ノ前日迄之ヲ

支給セズ俘虜ト爲リタルトキ亦同ジ

第二十三條 長期就航手當ハ船員内地港灣歸着ノ際之ヲ支給ス

第十一節 遭難手當

第二十四條 應徵船員乗船ニ乗組ミ職務ニ從事中敵ノ襲撃ニ因

リ海難ニ遭遇シ内地ニ歸還シタルトキハ廳長ノ定ムル所ニ依

リ高級船員ニ在リテハ百圓以内、普通船員ニ在リテハ五十圓

以内ノ遭難手當ヲ支給ス

第十二節 所持品喪失手當

第二十五條 應徵船員乗船ニ乗組中海難ニ遭遇シ爲ニ所持品ヲ

喪失シタルトキハ左ノ區分ニ依リ所持品喪失手當ヲ支給ス但

シ本人死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ之ヲ支給ス

一 所持品ノ全部ヲ喪失シタルトキ

給料ノ六月份ニ相當スル金額(船匠ニ在リテハ更ニ百五十

圓ヲ加ヘタル額)

二 所持品ノ一部ヲ喪失シタルトキ

給料ノ六月份ニ相當スル金額以内ニ於テ廳長ノ定ムル額

(船匠ニ在リテハ更ニ百五十圓以内ニ於テ廳長ノ定ムル額

ヲ加ヘタル額)



前項ノ規定ニ該當スル者被服物品ノ給與ヲ受ケタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ當該手當ノ額ヨリ控除ス

### 第十三節 死傷病手當

第二十六條 應徵船員傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ應徵船員死傷病手當支給規則ヲ準用ス

### 第四章 賞 與

第二十七條 應徵船員ノ賞與ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ支給ス

### 第五章 退職手當

第二十八條 應徵船員ノ退職手當ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ支給ス

### 第六章 糧 食

第二十九條 應徵船員ニハ糧食ヲ給與ス但シ判任官以上又ハ判任官待遇以上ノ者ニハ糧食ト共ニ又ハ糧食ニ換ヘ第六表ニ依リ食料ヲ支給スルコトヲ得

### 第七章 被 服

第三十條 應徵船員ニハ船長ヲ經テ第七表ニ依リ被服物品ヲ貸與スルコトヲ得

第三十一條 應徵船員乗組船舶ノ破壊、沈没其ノ他不可抗力ニ依リ被服物品ヲ亡失シ又ハ毀損シテ使用ニ堪ヘザルニ至リタルトキハ第八表ノ範圍内ニ於テ被服物品ヲ給與スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ被服物品ハ遭難者初メテ本邦港灣ニ到着シタルトキ該港灣ヲ所管警備區トスル領守府又ハ警備府所在地ノ海軍軍需部ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

### 第八章 戰時特別給與品

第三十三條 應徵船員ニシテ戰地ニ在ルモノ又ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ルモノニハ第九表ニ依リ日用品及臨時飲食物ヲ給與ス但シ判任官以上又ハ判任官待遇以上ノ者ニハ日用品ハ之ヲ給與セズ

### 第九章 治 療

第三十四條 應徵船員傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ原因故意ニ出ヅル場合ヲ除クノ外其ノ治療費ハ官費支辨トス但シ自己ノ便宜ニ依リ隨意治療スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

### 第十章 旅 費

第三十五條 應徵船員居住地ヨリ乗組船舶ノ所在地ニ赴クトキ又ハ徵用ヲ解除セラレ居住地ニ復歸又ハ歸郷スルトキハ昭和十七年海軍省令第二十五號（國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ海軍ニ徵用セラレタル者ノ給與ニ關スル件）ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ家族移轉料ハ之ヲ支給セズ

第三十六條 應徵船員公務ニ依リ旅行ヲ命ゼラレタルトキハ海軍ニ於テ定ムル旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

第三十七條 應徵船員死亡シタルトキハ海軍内國旅費規則第六十五條乃至第六十七條ノ規定ヲ準用シ遺族手當ヲ支給ス

### 第十一章 葬 理

第三十八條 應徵船員死亡シタルトキハ官ニ於テ之ヲ埋葬シ又ハ其ノ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族又ハ故舊ニ引渡ス爲必要ナル諸費ハ之ヲ官費支辨トス

第十二章 雜 則

第三十九條 海軍省經理局ハ船舶運營會ノ請求ニ依リ同會ガ海軍ノ委託ニ基キ乙船員ニ對シ支給シタル額ヲ同會ニ支拂フモノトス

第四十條 乙船員内地以外ニ於テ乗組船舶ヲ離レ船舶運營會ニ於テ之ガ給與支給困難ナル場合ハ船舶運營會ノ委託ニ依リ本則ニ依リ海軍ニ於テ給與スルコトヲ得

第四十一條 前條ノ規定ニ依リ給與シタル者アルトキハ給與掌理者ハ當該船員ノ職氏名、給與種別、金額ヲ海軍省經理局長ニ通報スルモノトス

第四十二條 甲船員海軍ニ配屬ノ儘召集セラレタルトキ軍人トシテノ俸給甲船員トシテノ給料ノ額ヨリ少キトキハ其ノ差額ヲ補給ス

前項ノ補給ニ關シテハ昭和十八年官房經第四三七號ヲ準用ス  
第四十三條 甲船員及第四十條ノ規定ニ該當スル乙船員ノ給與ノ掌理者ハ第十表ニ依ル

第四十四條 本則ハ海軍ニ在籍ノ儘徵用セラレタル船員ニハ之ヲ適用セズ

附 則

本則ハ昭和二十年三月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ乙船員ニ關スル部分ニ付テハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス  
應徵船員ニシテ應徵船員給與規則ニ依リ決定セラレタル其ノ給料ガ本則適用ノ際現ニ受クル給料ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ

補給手當トシテ支給ス但シ應徵船員ノ現ニ受クル給料ガ同則第五條又ハ第十三條ノ最高額ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ超過額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ補給手當ハ昇給ノ都度其ノ昇給額ニ相當スル額ヲ減額スルモノトス

總噸數五百噸未滿ノ船舶ニ乗組ム應徵船員ニシテ本則適用後船長又ハ機關長ト爲リタルモノニ對シテハ當分ノ内月額三十圓ノ手當ヲ支給スルモノトス但シ給料ト合シテ船長ニ在リテハ百三十圓、機關長ニ在リテハ百二十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ  
前項ノ手當ハ昇給ノ都度其ノ昇給額ニ相當スル額ヲ減額スルモノトス  
海軍徵備船舶船員給與規則ハ之ヲ廢止ス

(別表添)

内令第三〇九號

驅逐隊編制中左ノ通改定セララル

昭和二十年四月十日

海 軍 大 臣

第一驅逐隊ノ項中「野風、」ヲ削ル

第五十二驅逐隊ノ項中「檢、」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第三一〇號

潜水隊編制中左ノ通改定セララル

2072

昭和二十年四月十日

海軍大臣

第十五潜水隊ノ項中「伊號第三百六十二」及「伊號第三百六十八、伊號第三百七十、伊號第三百七十一」ヲ削ル  
第三十三潜水隊ノ項中「伊號第二百二」ヲ削ル  
第三十四潜水隊ノ項中「呂號第四十三」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

官房軍機密第三八八號

陸海軍技術運用委員會規約中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十一日

海軍大臣  
陸軍大臣

別表海軍委員ノ欄中「海軍省兵備局第二課長」ヲ「海軍省軍務局第三課長」ニ、「海軍電波本部總務部第一課長」ヲ「第二海軍技術廠總務部第二課長」ニ、「海軍委員輔佐ノ欄中

「海軍省軍務局局長」ヲ「海軍省軍務局局長」ニ、「海軍電波本部總務部部長」ヲ「第二海軍技術廠總務部部長」ニ改ム

同表部外委員ノ欄中「工學博士 八木秀次」ヲ削リ部外委員輔佐ノ欄中「技術院總務部總務課長」ヲ「技術院研究動員部研究動員課長」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ六四ノ一〇頁参照)

秘海軍公報 第四九八八號 昭和二十年四月十八日

官房軍第一九一號

術科指導部規程中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十四日

海軍大臣

第四條第一項及別紙中「防空指導班」ヲ「高射指導班」ニ改ム

(二月十六日秘海軍公報参照)

官房軍機密第三八七號

術科指導部規程ニ定ムルモノノ外高射指導班、平射指導班及砲隊指導班ノ編制標準ヲ別紙第一、第二及第三ノ通定ム  
前項ノ規定ニ依ル各指導班ハ横須賀海軍砲術學校ニ配屬シ其ノ人員ハ同校ノ職員ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

昭和二十年四月十四日

海軍大臣

(別紙添)

○遺 牒

軍務一機密第二八二號

昭和二十年四月十五日

海軍省軍務局長

各 廳 長 殿

軍人軍屬ノ言動自肅ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ各部ニ於テ充分監督指導セラレアリト認メラレ候處猶人心ノ不安ヲ助成シ或ハ一般民衆ノ反感ヲ招クガ如

四〇九

2073

キ事象跡ヲ絶タズ現下社會ノ指導力且安定力タルベキ軍部トシテ更ニ反省自戒ノ要切ナルモノアリト思料セラレ候ニ付テハ一層指導ヲ強化セララルル様致度

尙近時一部軍人ニ於テ私有荷物ノ運搬ニ官用自動車ヲ使用スル等職權ヲ濫用スル向有之趣ニテ甚ダ遺憾ニ被存候ニ付テハ此等ノ者ニ對シテハ嚴罰ヲ以テ臨ム如ク特ニ指導ヲ嚴ニセラレ度

教育機密第一七二號

昭和二十年四月十五日

海軍省教育局長  
海軍省經理局長

關係各所轄長殿

海軍主計少尉候補生並ニ海軍主計見習尉官ニ對スル實務練習ニ關スル件申進

今回各部ニ配員セラレタル海軍主計少尉候補生並ニ海軍主計見習尉官（一部五月一日附配員セララルル豫定）ニ對スル實務練習ハ情況ノ許ス限リ海軍主計少尉候補生實務練習規則ニ依ル第二期實務練習ニ準ジ實施方取計相成度、  
追テ同規則第十三條及第十七條ノ規定ニ依ル考査、實務練習報告及成績通知等ハ省略シ差支無之候

○雜 談

○開隊 開隊

官衙、部隊名 所在地 開隊、開 隊月、日 記 事

西海軍航空隊	大分縣大分市今津留（舊横須賀分遣隊内）	三月二〇日	轉勤者赴任先
第三四三海軍航空隊	徳島海軍航空隊	三月二五日	轉勤者赴任先
大湊海軍警備隊	青森縣下北郡田名部町大湊海兵	四月一日	轉勤者ハ直接同隊ニ赴任 シシメラレ度
第二海軍航空隊 （舊第二海軍航空隊） （分工場）	三重縣鈴鹿市白子町	同	旅行順路 大湊線下北驛下車

○轉勤者赴任先  
當隊（對潛訓練隊編入中ノ海防艦ヲ含ム）ヘノ轉勤者ハ舞鶴ニ向ケ赴任セシメラレ度  
（對 潛 訓 練 隊）

○本日海軍公報發行セズ

(達第七一號別表)

(昭和二十年四月十八日秘海軍公報)

第九表 戦時特別給與品		種別	名	給與數量	支給定日
臨時飲食物	酒、煙草、甘味品	日用品	手拭、ハンカチーフ、齒磨揚子、齒磨粉、落シ紙、襪、石鹼、鉛筆、狀袋、便箋	適宜	所轄長ノ定ムル所ニ依ル
考	備	<p>本表ノ物品ノ給與ハ左ノ各號ニ依ルモノトス</p> <p>一 本表ノ物品ハ日用品及臨時飲食物ニ分テ當月ノ豫算範圍内ニ於テ食卓長、班長等ニ之ヲ配給スルモノトス</p> <p>當月ノ豫算ハ其ノ月一日在籍員(給與資格者)ニ對シ日用品ニ在リテハ五十錢、臨時飲食物ニ在リテハ二圓ヲ乘ジタル金額トス但シ給與開始ノ月ハ開始ノ日ノ現在員ニ付日割計算ニ依リ之ヲ算出スルモノトス</p> <p>二 支給日ニ於ケル現在員當月ノ豫算人員ニ比シ二割以上ノ増減アル場合ハ支給日ノ現在員ニ依リ前號ノ豫算ヲ更定スルモノトス</p> <p>三 本表ノ物品ハ適宜類似ノ他ノ物品ニ換ヘ之ヲ給與スルコトヲ得</p> <p>四 當月ノ豫算ハ物品ノ入手不能等特別ノ事由アル場合ノ外翌月ニ繰越スコトヲ得ザルモノトス</p>			

2075

(達第七一號別表)

(昭和二十年四月十八日海軍公報)

第十表 給與掌理者區分表	
區分	給與掌理者
特設艦船タル徵備船ノ船員ノ給與  特設艦船ニ非ザル徵備船ノ船員ノ給與 一 艦隊又ハ特設根據地隊等ニ配屬ノ徵備船 二 防備隊、警備隊等ノ部隊ニ配屬ノ徵備船 三 海軍省ニ配屬ノ徵備船 四 鎮守府又ハ警備府ニ配屬ノ徵備船 五 前二號以外ノ各廳ニ配屬ノ徵備船	當該艦船ノ經費掌理者  當該部隊ノ所屬長官又ハ司令官ノ指定スル部下艦船部隊主計長 當該部隊主計長 當該徵備船ノ所管鎮守府ニ屬スル海軍經理部 當該鎮守府又ハ警備府ニ屬スル海軍經理部 當該各廳ノ經費掌理者
備考 本表ニ據リ難キ場合ハ艦船部隊等ノ經費等ノ取扱特例ノ各條ノ規定ニ依リ處理スルモノトス	

(官房軍機密第三八七號別紙第一)

(昭和二十年四月十八日祕海軍公報)

高射指導班編制標準		區	分	人員	員	教育	分	擔
班	員	尉官、准士官	少佐、大尉	二	一	射法、築城、電測		
班	附(幹部)	下士官		二		防空要務、見張、有線電話		
班	附(測的)	下士官		三		指揮要具、電氣、電測、測距、照射		
班	附(高角砲)	下士官		二		兵器、火工品、操法		
班	附(機銃)	下士官		二		兵器、操法		
班	附(噴進砲)	下士官		一		噴進砲		

差當リ二箇班ヲ編成ス

2077

(官房軍機密第三八七號別紙第二)

(昭和二十年四月十八日秘海軍公報)

平射指導班編制標準		區	分	人員	員	教育	分	擔
班	員	尉官、准士官	少佐、大尉	一	射擊指揮 築城、電測			
班	附(幹部)	下士官(幹部)	下士官(測電)	一	指揮兵器 有線通信			
班	附(測觀的)	下士官(測的)	下士官(測的)	一	測距、照射 測量			
班	附(電測)	下士官(電測)		一	電測			
班	附(砲臺)	下士官(高砲)		二	兵器、火工品、操法			
班	附(短迫)	下士官(高砲)		一	短迫擊砲			

- 一 本編成ハ最小限員數ヲ示ス
- 二 對上陸部隊(戰車、舟艇等)砲戰ノ指導力ヲ有スルモノトス
- 三 差當リ二箇班ヲ編成ス

2078



(官房軍機密第三八七號別紙第三)

(昭和二十年四月十八日秘海軍公報)

砲隊指導班編制標準		區	分	人員	員	教育	分	格
班	附	下士官(高砲)	下士官(高砲)	下士官(測的)	下士官(高砲)	射擊指揮	二	築城
班	員	尉官、准士官	尉官、准士官	尉官、准士官	尉官、准士官	短十二種砲	一	噴進砲
						觀測、測的		火工兵器

一 砲隊トシテ編成セラレタル部隊ノ教育ニ充ツルモノトス  
 二 差當リ四箇班ヲ編成ス

(達第七一號別表)

(昭和二十年四月十八日秘海軍公報)

備考	第一表 臨時乗船手當		
	平水區域	沿岸區域	近海區域
一 本表ノ額ハ月額トス 二 平水區域、沿海區域及近海區域トハ船舶安全法施行規則第二十六條乃至第二十八條ニ規定スル區域ヲ謂フ 三 乗組船舶ガ木造船又ハ木鐵交造船ナルトキハ更ニ月額十圓ヲ加給ス 四 近海區域中第二區又ハ第三區ヲ航行シタルトキハ本表ノ額ニ更ニ十圓ヲ加給ス	職名區別	船長	三五〇〇
	機關長	三〇〇〇	七〇〇〇
	甲級高級船員	二五〇〇	五五〇〇
	甲級機長	二五〇〇	四五〇〇
其他ノ普通船員	二〇〇〇	三〇〇〇	三五〇〇

(達第七一號別表)

月 額	職 名	第二表 戰 時 勤 務 手 當	
	船 長		三〇〇〇 <small>円</small>
	機 關 長		一〇〇〇〇 <small>円</small>
	其ノ他ノ高級船員 司操甲板 廚機板 長長長員		一五〇〇 <small>円</small>
	其ノ他ノ普通船員		一〇〇〇 <small>円</small>

(昭和二十年四月十八日祕海軍公報)

2081

(達第七一號別表)

(昭和二十年四月十八日祕海軍公報)

考 備	五 〇 〇 噸 未 滿 數		五 〇 〇 噸 以 上 數		船 型	特 別 航 海 手 當	額
	第 一 區	第 二 區	第 一 區	第 二 區			
一 航 海 方 同 一 日 ニ 於 テ 二 區 ニ 五 リ タ ル 場 合 ニ 於 テ ハ 多 額 ニ 付 支 給 ス 二 日 本 海 海 域 ハ 當 分 ノ 間 之 ヲ 第 一 區 ト ス	第 一 區	第 二 區	第 一 區	第 二 區	日 本 海 海 域	日 本 海 海 域 以 外	給 料 月 額 ノ 百 分 ノ 四 十 ニ 相 當 ス ル 金 額
	日 額		職 名		給 料 月 額 ノ 百 分 ノ 二 十 ニ 相 當 ス ル 金 額		給 料 月 額 ノ 百 分 ノ 四 十 ニ 相 當 ス ル 金 額  給 料 月 額 ノ 百 分 ノ 二 十 ニ 相 當 ス ル 金 額
	一 五 〇	三 〇 〇	船 長	機 關 長	其 他 船 員 長		
	一 五 〇	三 〇 〇	機 關 長	司 操 甲 高	其 他 船 員 長		
	一 〇 〇	二 〇 〇	機 關 長	司 操 甲 高	其 他 船 員 長		
	一 〇 〇	二 〇 〇	機 關 長	司 操 甲 高	其 他 船 員 長		
	一 〇 〇	二 〇 〇	機 關 長	司 操 甲 高	其 他 船 員 長		
	一 〇 〇	二 〇 〇	機 關 長	司 操 甲 高	其 他 船 員 長		
八 〇	一 六 〇	普 通 船 員	其 他 船 員	普 通 船 員			

(達第七一號別表)

第四表		特 技 手 當	
手當ノ種別	級 別	月	額
給 炭 手 當	第一級檢定證書ヲ有スル者	五	圓
	第二級檢定證書ヲ有スル者	三	圓
信 號 手 當	陸軍信號手資格證書ヲ有スル者	三	圓
	海軍一級檢定合格證書ヲ有スル者	五	圓
	海軍二級檢定合格證書ヲ有スル者	三	圓
喇 叭 手 當		三	圓
水 中 聽 音 手 當		五	圓
電 波 探 知 手 當		五	圓

(昭和二十年四月十八日秘海軍公報)

2083

(達第七一號別表)

(昭和二十年四月十八日秘海軍公報)

第五表		水先手當	手當額
同一場所ニ於テ運航ニ從事スル期間			
五日以内	同	水先案内料ノ百分ノ六ニ相當スル金額	當額
十日同	同	百分ノ八ニ相當スル金額	
十五日同	同	百分ノ十二ニ相當スル金額	
三十日同	同	百分ノ十八ニ相當スル金額	
四十五日同	同	百分ノ二十五ニ相當スル金額	
備考 本表ニ依リ算出シタル手當額ガ十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ十圓トス			

2084

(達第七一號別表)

(昭和二十年四月十八日祕海軍公報)

第六表 食料		區分	金額
奏勅任官待遇者	一食ニ付	一	四十錢
判任官待遇者	同	同	三十五錢

備考  
 一 服務午後九時以後ニ及ブトキハ勅任官待遇者、奏任官待遇者又ハ判任官待遇者ニ在リテハ各規定食料ノ一食分ノ夜食料、雇員傭人ニ在リテハ十錢ノ夜食料ヲ支給ス  
 二 判任官待遇者以上ニ糧食ヲ給與シタルトキハ勅任官待遇者又ハ奏任官待遇者ニ在リテハ一食ニ付十錢、判任官待遇者ニ在リテ一食ニ付五錢ノ食料ヲ併給ス但シ夜食料ヲ給シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(達第七一號別表)

(昭和二十年四月十八日祕海軍公報)

第七表 被服物品		品名	數	量
半	靴		一	組
作業服	上衣袴		一	組
略	帽 (前章ヲ附セス)		一	個
備	一 本表ノ被服物品ハ在庫品ノ狀況ニ依リ半靴ハ略靴、作業服上衣袴又ハ略帽ハ従前ノ海軍給與令施行細則ノ規定ニ依ル事業服(機關部ニ勤務スル者ハ掃除服)又ハ第二種略帽ヲ以テ夫々代用スルコトヲ得 二 防寒服ノ貸與ヲ要スル場合ハ本表ノ外防寒外套、防寒帽(前章ヲ附セス)及半長靴ニ限り定員數ノ二分ノ一以內ヲ貸與スルコトヲ得			
考				



(違第七一號別表)

(昭和二十年四月十八日海軍公報)

備考	第八表 被服物品													品名区分	待遇官	判任官	其ノ他	制式	記事							
	靴	手	カ	白	白	半	夏	冬	夏	冬	船	作	防							雨	外	夏	冬	正		
<p>一 本表ノ被服物品ノ代價ハ海軍省軍需局長ノ定ムル所ニ依ル</p> <p>二 本表ノ範圍内ニ於テ給與スル被服物品ノ代價ノ合計額ハ委任官待遇者以上ニ在リテハ三百圓、判任官待遇者ニ在リテハ二百圓、雇員及傭人ニ在リテハ百二十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ</p> <p>三 本表ノ被服物品ハ適宜ノ制式ノモノニ換ヘ之ヲ給與スルコトヲ得</p>	下	袋	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	普通ノ制式	船員服裝規程ノ定ムル所ニ依ル	甲號及乙號ノ區分アルモノハ定數以内ニ於テ適宜給與スルコトヲ得				
				白シャツ	白靴	半靴	夏袴下	冬袴下	夏袴	冬袴	船内帽	作業服	防暑衣袴	雨衣	外套	夏衣袴	冬衣袴	正帽		下士官、軍樂兵襦袢ニ準ズ	下士官、軍樂兵夏襦袢ニ準ズ	略帽ニ準ズ	事業服上衣袴ニ準ズ	下士官兵防暑衣袴乙ニ準ズ		

2087

秘

# 海軍公報

第四九八九號

昭和二十年四月十九日(木)

海軍大臣官房

○令 達

内令第三一一號

佐世保鎮守府豫備海防艦

海防艦 探

海防艦 笠

舞鶴鎮守府豫備海防艦

海防艦 占

海防艦 國

海防艦 八

右警備海防艦ト定メラル

舞鶴鎮守府警備敷設艇

敷設艇 成

右役務ヲ解カル

昭和二十年四月十日

海軍大臣

内令第三一二號

横須賀鎮守府在籍

驅逐艦 野

風

吳鎮守府在籍

驅逐艦 檜

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

伊號第三百六十二潛水艦

佐世保鎮守府在籍

伊號第三百六十八潛水艦

伊號第三百七十潛水艦

伊號第三百七十一潛水艦

舞鶴鎮守府在籍

呂號第四十三潛水艦

右帝國潛水艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

砲艦 唐津

右帝國砲艦籍ヨリ除カル

吳鎮守府在籍

第五十三號海防艦

第四百四十四號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 昭南

海防艦 屋久

舞鶴鎮守府在籍

第九號海防艦

右帝國海防艦籍ヨリ除カル

秘海軍公報 第四九八九號 昭和二十年四月十九日

四二一

2088

<p>吳鎮守府在籍 第一百十四號輸送艦</p> <p>右帝國輸送艦籍ヨリ除カル</p> <p>舞鶴鎮守府在籍 敷設艇 成 生</p> <p>右帝國敷設艇籍ヨリ除カル 横須賀鎮守府在籍 特務艦 知 床</p> <p>右帝國特務艦籍ヨリ除カル</p> <p>昭和二十年四月十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第三一三號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年四月十日</p> <p>佐伯防備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ</p> <table border="1" data-bbox="526 504 614 1108"> <tr> <td>下關防備隊</td> <td>第六十七號(横)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第二百四十七號(横)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第二百四十六號(阪)</td> </tr> </table> <p>第一南遣艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十七號(横)及「第二百四十六號(阪)ヲ削リ魚雷艇ノ欄「自第四百三號(佐)至第四百五號(佐)ニ改ム 「自第四百三號(佐)至第四百八號(佐)」ヲ</p> <p>海軍大臣</p>	下關防備隊	第六十七號(横)		第二百四十七號(横)		第二百四十六號(阪)
下關防備隊	第六十七號(横)						
	第二百四十七號(横)						
	第二百四十六號(阪)						
<p>馬公方面特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ</p> <table border="1" data-bbox="1101 1153 1157 1758"> <tr> <td>上海方面</td> <td>第二百二十號(吳)</td> </tr> <tr> <td>根據地隊</td> <td>第二百四十號(阪)</td> </tr> </table> <p>第二十五根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二號(吳)ヲ、魚雷艇ノ欄「第九號(横)ヲ削ル</p> <p>第二十七特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六十號(横)ヲ削ル</p> <p>第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十號(吳)及「第二百四十號(阪)ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)</p> <p>内令第三一四號</p> <p>右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 第四百九號魚雷艇</p> <p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 第四百六號魚雷艇</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>昭和二十年四月十日</p> <p>海軍大臣</p>	上海方面	第二百二十號(吳)	根據地隊	第二百四十號(阪)	<p>内令第三一五號 特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年四月十日</p>		
上海方面	第二百二十號(吳)						
根據地隊	第二百四十號(阪)						

2089

海軍大臣

第一監視艇隊ノ項中「第五福丸」、「勝榮丸」、「第三朝洋丸」、「第二十八南進丸、第三十五南進丸」、「高貴丸」、「富士丸」、「第五盛運丸」及「第三三德丸」ヲ削ル  
 第二監視艇隊ノ項中「第三寶松丸」及「第五萬榮丸」ヲ削ル  
 第三監視艇隊ノ項中「第五寶榮丸」、「第三十六南進丸」、「第十七長運丸」、「榮福丸」、「第三號昭和丸、第八事代丸」、「第三共和丸」及「第二榮福丸」ヲ削ル

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第三一六號

昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年四月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「通海丸(横)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第五盛秋丸(横)」ヲ削ル  
 伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「和風丸(横)」ヲ削ル  
 佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「長門丸(佐)、烏來丸(佐)」及「龍井丸(佐)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第三南陸丸(佐)」及「第五大成丸(佐)」ヲ削ル  
 大島防備隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「柏丸(佐)」ヲ削ル  
 第二南道艦隊ノ項ヲ削ル

第十二特別根據地隊ノ項ヲ削ル

第二十三特別根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「肥後丸(佐)」及「鶴丸(佐)、大鷹丸(佐)」ヲ削ル  
 第二十六特別根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「國南丸(吳)、第二號海王丸(吳)、第三號海王丸(吳)」ヲ削ル  
 第二十八根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「島根丸(吳)、立山丸(吳)、白山丸(吳)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第三一七號

汽船柏丸  
 同 漢江丸  
 同 泰川丸  
 右特設捕獲網艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 同 道海丸  
 同 和風丸  
 右特設驅潛艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 同 海王丸  
 (船舶番號三三三三)  
 同 海王丸  
 (船舶番號三三三三)  
 同 島根丸  
 同 立山丸

秘海軍公報 第四九八九號 昭和二十年四月十九日

四一三

右特設驅潛艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 同 白 山 丸  
 同 鶴 來 丸  
 同 大 鷹 丸  
 同 長 門 丸  
 同 肥 後 丸  
 同 龍 井 丸

右特設驅潛艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 同 第一 京 丸  
 同 麗 水 丸

右特設掃海艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 漁 船 榮 福 丸  
 同 第二 榮 福 丸  
 同 第三 共和 丸  
 同 高 貴 丸  
 同 第八 事 代 丸  
 同 第二 三 德 丸  
 同 第三 昭 和 丸  
 同 勝 榮 丸  
 同 第五 盛 運 丸  
 同 第五 盛 秋 丸

依

右特設監視艇トシ橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 同 第三 朝 洋 丸  
 同 第十七 長 運 丸  
 同 第二十八 南 進 丸  
 同 第三十五 南 進 丸  
 同 第三十六 南 進 丸  
 同 富 士 丸  
 同 第五 福 一 丸  
 同 第五 寶 榮 丸  
 同 第三 寶 松 丸  
 同 第五 萬 榮 丸

右特設監視艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 同 第五 大 成 丸  
 同 第三 南 薩 丸

右特設運送船(雜用船)トシ橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 汽 船 日 吉 丸  
 同 重 興 丸

右特設運送船(給油船)トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 昭 和 二 十 年 四 月 十 日

海 軍 大 臣

○ 通 牒

官房艦機密第九八六號

昭和二十年四月六日

海軍省 副官

各鎮守府 參謀長  
各警備府 參謀長  
海軍艦政 本部長 殿

諸公試諸試驗一部省略實施要領廢止ノ件通知

昭和十九年三月八日官房艦機密第一四五二號ハ之ヲ廢止セラレ候

軍務三機密第二九一號

昭和二十年四月十六日

海軍省 軍務局長

海軍省 教育局長  
海軍省 需務局長  
海軍省 經理局長  
海軍省 航政本部長  
海軍省 施設本部長  
海軍省 警備府 參謀長  
海軍省 監理官  
海軍省 監督官 (首席監督官)

空襲罹災中小工場ノ應急復舊ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ今般別紙寫ノ通知有之候處臨時生産防衛對策中央本部ニ於ケル工場事業場ノ應急復舊ノ一般の方針ニ關スル

關係各省間ノ申合(四月九日附軍務三機密第二四六號四月十三日祕海軍公報第四九八三號揭載參照)ノ趣旨ニ則リ各地方長官其ノ他關係各機關ト協力シ首題措置實施ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度

(別紙寫)

防業二〇發第五九號

昭和二十年三月二十九日

防空總本部長

各都廳府縣長官殿

空襲罹災中小工場ノ應急復舊ニ關スル件

空襲ニ因ル工場事業場ノ應急復舊等ニ關シテハ關係地方官廳ト連繫協力シ夫々迅速適切ナル指導ヲ加ヘラレツツアル處最近ノ空襲ニ依リ相當多數ノ工場事業場ニ被害發生シ企業再整備等ノ措置及工場事業場ノ分散疎開計畫トノ關聯モアリ去就ニ迷ヒ生産ヲ阻害シツツアル狀況ニ有之候ニ付中小工場(防空法施行令第十六條ノ四ノ規定ニ依ル各省大臣ノ指定工場ヲ除ク)ノ應急復舊(轉活用)ニ關シテハ概ネ左記ニ依リ貴官ニ於テ關係地方行政協議會長、軍需監理部長等ト連絡ノ上迅速強力ニ復舊轉活用ノ方途ヲ講ジ以テ戰時生産ノ維持ニ關シ格段ノ御努力相成度此段及通牒候也

迫而本件ニ關シテハ軍需省トモ協議濟ニ有之中添候

記

一 空襲被害後速ナル時機ニ陸海軍、軍需監理部等地方關係官

廳關係官、被害工場事業場代表者ヲ以テ復舊對策打合せヲ催シ復舊ノ可否順位資材勞務ノ斡旋等ニ付具體的ニ決定實施スルコト

- 二 全壞燒又ハ半壞燒ノ工場事業場ニ付テハ別紙軍需省臨時生産防衛對策中央本部決定方針ニ依リ復舊ノ適否ヲ定ムルコト、但シ航空機、航空燃料、兵器又ハ其ノ部分品等ヲ生産シ又ハ其ノ生産ニ轉換シ得ル工場事業場ニ付テハ相當ノ被害ヲ蒙リタルニモ抱ラズ復興ノ熱意旺盛ニシテ原材料ノ手當、輸送關係等ヲ考慮シ適當ナル親工場ヘノ吸叫又ハ協力工場トシテ斡旋復舊セシムルコト
- 三 工場、事業場ノ復舊轉活用ニ當リテハ極力分散的ニスルト共ニ防空的整備ヲ充分考慮セシムルコト
- 四 分散移設セントスル場合ニ於テハ極力地下又ハ林間ニ分散若クハ堅牢建築物ニ依ラシムルコト、シ軍事上ノ重要防衛地域ヲ避ケシムルコト

(別紙) 昭和二十年三月二十三日

臨時生産防衛對策中央本部

空襲被害工場ノ復舊方針

- 一 空襲ニ依ル被害工場ニ對シテハ現場復舊ヲ絕對ニ必要トスルモノニシテ復舊容易ナルモノニ限リ復舊ヲ認ムルコト
- 二 生産ノ重要度特ニ高キモノニシテ現状復舊困難ナルモノニ付テハ至急生産轉移ヲ實施スルコト、生産轉移困難ナルモノ

ニ付キテハ中央ニ於テ再建ヲ計畫スルニ付キ至急連絡スルコト

- 三 現場復舊ノ極メテ容易ナル工場ニシテ復舊資材僅少ナルモノハ現場ニ於テ復舊スルコト
- 四 燒失工場ノ勞務者、機械等ハ取敢ヘズ關係工場、同種工場ニ移轉收容スルコト
- 尚使用可能ナル機械類ハ堅牢建築物等ニ取敢ヘズ努メテ收容保管ノ上他ニ轉用スル等ノ方途ヲ併セ講ズルコト
- 五 現状ニ於テ復舊スル場合ニ於テハ燃料、電力等ニ關シ關係官廳ニ於テ斡旋スルコト尙必要ニ應ジ堅牢建築物ニ收容スル等ノ方途ヲ講ズルコト

軍務三機密第二九三號

昭和二十年四月十六日

海軍省軍務局長

海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省
總務部長	參謀部長	各府	各府	各府	各府	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省
		各府	各府	各府	各府	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省
		海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省
		海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省	海軍省

海軍省軍務局長

細災產業設備ノ轉用措置ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ今般關係各省間ニ於テ別紙ノ通中合決定近ク軍需省企業整備本部長ヨリ各地方長官宛正式通牒ノ豫定ニ有之候條左記事項留意ノ上指導相成度

記

- 一 本措置ハ從來ノ回收機關ヲ經由スル間接轉用方式ニ依ルノ外緊急利用ニ應ジ地方長官ノ認定ニ依リ當事者間ニ於テ直接轉用シ得ルガ如ク簡素化スル等迅速處理ヲ旨トセルモノナリ
- 二 本要領中地方長官トハ對象物件所在地ノ所管地方長官ヲ謂フ
- 三 海軍關係ノ轉用要望ハ各海軍監督長(首席監督官)ノ證明書(直接授受ノ場合ハ緊急需要證明書及當事者相互間ノ讓渡(受)同意書)ヲ附シ提出セシムルコト
- 四 國民更生金庫ト産業設備營團トノ取扱區別ハ戰災等ニ依リ事業主方其ノ業ヲ廢止スルニ至リタル場合ヲ前者右以外ハ後者トス
- 五 本要領ノ取扱ハ客年四月九日附兵備二機密第七八八號竝ニ五月三日附兵備二機密第九四〇號ニ依ル現行物件轉用方式ニ準ズルモノトス
- 六 本件實施ニ際シ本年三月二十四日附軍務三三七號被爆ニ依ル燒失地域内屑鐵等處理ニ關スル件トノ關聯ヲ考慮轉用物件ノ戦力化促進ニ關シ特段ノ措置ヲ講ズルコト

(別紙)

空襲等ノ災害ニ伴フ産業設備ノ買受等ニ關スル件

一 空襲、震災等ノ災害ニ因ル被災工場事業場ニシテ復舊(疎開復舊ヲ含ム)セザルモノト決定セラレタルモノニ屬スル産業設備ハ原則トシテ所有者ノ申出ニ應ジ産業設備營團(以下營團ト稱ス)之ヲ買受クルコト

二 前號ノ産業設備トハ

(一) 機械、器具、工具、備品其ノ他ノ事業用品ニシテ原則トシテ金屬ヲ主タル材料トスルモノヲ謂フコト但シ所有者ニ於テ處分困難ナルモノ等已ムヲ得ザルモノニ付テハ金屬ヲ主タル材料トセザルモノヲモ含ムコト

(二) 屑化シタルモノ(昭和十九年十二月十六日附企作第四七五號企業整備本部長通牒ニ依ルモノヲ謂ヒ大修理ヲ爲スニ非ザレバ原用途ニ使用シ得ザルモノヲ含ム)及國民更生金庫(以下金庫ト稱ス)ニ於テ買受クベキモノ(昭和十八年十月十二日附一八企第七八四號商工省企業局長通牒及昭和十九年七月十二日附一九總局第三二四五號農商省總務局長通牒參照)ヲ除クコト

右ノ屑化シタルモノト然ラザルモノトノ認定ハ當該設備所在地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フコト

三 地方長官ハ營團又ハ金庫ガ本件ニ依リ買受クベキ産業設備(屑化シタルモノ及金屬ヲ主タル材料トセザルモノヲ除ク)ニシテ未ダ讓渡移動ノ制限無キモノニ付テハ昭和十九年軍需省告示第三百五十二號ニ基キ遊休又ハ不要不急ノ設備又ハ機器トシテ認定ヲ行フコト



前項ニ依リ認定シタル産業設備ニ付地方長官必要アリト認めタルトキハ第一號ノ申出ヲ俟タズ所有者ニ對シ營團又ハ金庫ニ對スル讓渡ノ申込ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得ルコト

(金屬類回收令施行規則第九條參照)

四 營團ニ於テ買受クル産業設備ノ評價ハ「産業設備營團買受産業設備ノ評價方法基準(一般)」(特別基準ノ設定アルモノニ付テハ該特別基準)ヲ適用スルモノトシ當該設備ニ類似スル設備ニ付特別基準ノ設定アル場合ニ於テハ之ヲ準用スルコト但シ所有者及其ノ同業者ノ分擔割合ハ之ヲ零トス

五 營團ハ前號ノ評價ニ際シ戰時災害保險ニ加入セル設備ニ付テハ支拂保險金額ニ應ジ評價額ヲ斟酌スル等簡易機宜ノ措置ヲ講ズルコト尙全損ニ近キ損害ヲ被リタルモノニ付テハ保險會社ヨリ保險金額ヲ支拂フト共ニ保險ノ目的ヲ保險會社ニ交付セシムル便法ヲ採リ得ルコト

六 本件ノ取扱ニ付テハ迅速ニ處理シ特ニ對價ノ支拂ニ付テハ相當額ヲ速ニ概算拂スル様措置スルト共ニ罹災者ノ感情ヲ刺戟スルガ如キコトナキ様特ニ注意スルコト

七 回收機關(營團、金庫及金屬回收統制株式會社ヲ謂フ以下同ジ)ニ於テ買受ケタル産業設備中轉用シ得ルモノ(素材トシテ使用スルモノヲ除ク)ニ付テハ地方長官ニ於テ轉用先ヲ決定シ當該回收機關ニ對シ指示スルコト但シ地方長官ニ於テ特ニ必要アリト認めタル場合ニ於テハ回收機關ニ供出スルコト無ク地方長官ノ發行スル轉用證明書ニ依リ當事者間ノ直接

授受ヲ爲シ得ルコト

回收機關ニ對スル轉用指示及轉用證明書發行ノ方式ニ付テハ地方轉用措置ニ關スル現行ノ例ニ依ルコト

○ 雜 談

○本日海軍公報發行セズ